

6章 助動詞 1

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) 信号を無視して、交通量の激しい道路を横切ろうとする人もいるものだ。
- (2) 窓を閉めてくれませんか。
- (3) 起こった出来事を誰にも言うつもりはない。

■ 確認問題 2

解答

- (1) Shall
- (2) will
- (3) will, will

■ 確認問題 3

解答

- (1) テリーは怒ったらいつも、歩いて部屋から出て行ったものだ。
- (2) アレックスは遅れないと約束した。
- (3) 私たちはボートを借りようとしたが、誰も貸してくれようとしなかった。

■ 確認問題 4

解答

- (1) 新聞で読んだことをすべて信用するべきではないと私は思う。
- (2) ケイトは試験に合格するはずだ。一生懸命勉強し続けているのだから。
- (3) ケビンが自分の研究をあきらめなければならないなんてかわいそうなことだ。
- (4) 彼らは彼に家にいるよう命令した。

■ 確認問題 5

解答

- (1) 彼らは燃えさかる家から赤ちゃんを救助できた。
- (2) 少しお待ちいただいてもよろしいでしょうか。

■ 確認問題6

解答

- (1) この部屋でタバコを吸ってもよい。
- (2) あなたは、今は私の言うことを信じないかもしれない。
- (3) あなたが勝ちますように。

■ 確認問題7

解答

- (1) 彼女は失敗するかもしれないと言った。
- (2) 彼は私に家に帰ってもよいと言った。

■ 確認問題8

解答

- (1) 法に従わなければならない。
- (2) 法を破ってはいけない。
- (3) 若い労働者たちは高い税金を払わなければならないだろう。
- (4) あなたは今日仕事に行く必要はない。
- (5) その老人は少なくとも70歳に違いない。

■ 確認問題9

解答

- (1) あなたはこの仕事に応募すべきだ。
- (2) 彼女はお金をいくらか借りる必要があった。
- (3) あなたは今夜出かけない方がよい。

問題

【1】

解答・解説

- (1) Shall
○ Shall we *do*? 「(一緒に) …しましょうか」
- (2) won't [拒絶] ; shall
○ he shall *do* 「彼に…させよう」(話者の意志)
- (3) wouldn't [過去の拒絶]
- (4) would [過去の習慣的行為]
- (5) used to [現在との対比を表す過去の習慣的状態・行為。特定の過去時が明示されていれば would に言い換え可。]
- (6) Would [Do] ; opening [would を用いると丁寧な表現になる。]
○ mind …ing 「…するのを嫌がる, 気にする」
cf. Do you mind my opening the window?
直訳の「私が窓を開けるのを気にしますか。」が転じて、「窓を開けてもいいですか。」となる。
- (7) surprising ; should
○ it is surprising that S should *do* 「S が…するとは驚きだ」[「感情・判断」を表す should]
- (8) ought not to [had better not]
○ ought not to *do* 「…すべきではない」
○ had better not *do* 「…すべきでない, …しない方がよい」[had better は主語が2人称の場合, 「強制・脅迫」の意味を含むことがある。]
○ make friends with ~ 「~と友達になる」
- (9) Need ; must [助動詞 need は疑問文・否定文で用いるので, Yes, I need. とは言わない。]

【2】

解答・解説

- (1) will be able to [未来における「能力」は can の代わりに be able to を用いる。さらに, will の後に助動詞は続けられない。]
- (2) cannot [can't] [「可能性・推量」の否定]
- (3) Could [Can ; May] [「許可」を請う表現]
○ a piece of ~ 「1切れの～」 *cf.* two pieces of cake (2切れのケーキ)
○ Certainly. = Yes, you can [may].
- (4) may [can] [「可能性」を表す。]
- (5) was allowed to [got permission to] [過去における1回限りの「許可」を表す場合は was allowed to [got permission to] を用いる。]

- (6) may [might] 「推量」を表す。)
(7) must 「強い推量」を表す。)
○ acknowledge ~ 「～を認める、承認する」

[3]

解答・解説

ア：ウ

ア 「彼女の頭は白髪まじりである。彼女は 60 歳を超えているに違いない。」「強い推量」を表す must が入る。)

- gray hair 「白髪まじりの頭」

イ must を入れると文意が不自然。

ウ 「彼は危険な状態にある。君はただちに彼を助けに行かなければならない。」「義務」を表す must が入る。)

- be in danger 「危険な状態にある」

- at once = right away = immediately

エ 原則として助動詞の後に to 不定詞は続かない。動詞の原形がくる。

[4]

解答・解説

英語を読む時、ひょっとするとあなたはかたわらに辞書を 1 冊置いているかもしれません。知らない新しい語に出会うたびに、すぐにそれを調べずにはいられない、そうではありませんか。しかしそれはやめる必要があり、少なくとも 1 つの段落ぐらいは、辞書を使わないで読みなさい。

[5]

解答・解説

(1) that [so … that 構文]

(2) 「全訳」下線部参照

◇ He would not look out the window, …

○ would not … 「(どうしても) …しようとしなかった」〔過去時における固執・拒絶〕

◇ he was sweating so much that the flight attendants had to keep bringing him towels

○ sweat 「汗をかく」

○ so much that [so … that 構文]

○ keep …ing 「…し続ける」

全訳

数年前、私は中国からアメリカの故郷へ行くために飛行機に乗っていた。400 人を超える人々を乗せた大きな旅客機の中にいたのである。私たちは上空約 8 マイルのところにいた。機内では面白カウボーイの映画を上映していた。

旅は順調で、私の周りの乗客は皆くつろいでいた、私の座席から通路をはさんだ席に座っている年配の男性を除いては。彼は、座席の肘掛にしっかりとしがみついていたので、彼の指からは血の気が失せてしまっていた。彼はいわゆる「飛行機恐怖症」だった。彼は窓の外を見ようとはせず、客室乗務員が何度もタオルを持ってこなくてはならないほど汗をかいていた。

私は自分が彼に話しかけることで彼の役に立てるかもしれないと思った。

【6】

解答・解説

- (1) My (elder) sister used to study until late at night. [used to は、現在との対比で用いる。過去の習慣的行為を表す。]
- (2) Shall I ask her to send the book?
○ Shall I do? 「…しましょうか」
- (3) My father wouldn't allow me to go to college [university] . [would は、「過去の強い意志・拒絶」を表す。]
○ allow ~ to do 「～が…することを許す」

添削課題

【1】

解答・解説

- (1) (a) 「子供は時々非常に残酷になることがある。」〔可能性〕
(b) 「コンピュータは多くのことをすることができる。」〔能力〕
- (2) (a) 「これは君がずっと求めていたチャンスかもしれない。」〔現在時における推量〕
(b) 「15歳の時、彼女は夜の外出は9時までしかできなかつた〔許されていなかつた〕。」
(= She was allowed only to stay out until 9 o'clock.)

【2】

解答

ア

全訳

A：1時間同じところをぐるぐる運転しているわ。ここはどこかしら。

B：わからないな。次のガソリンスタンドで車を止めてみよう。

A：そうね。少なくとも地図はあるはずだわ。

B：出かける前にどうして地図を用意しておかなかつたんだい？

注

◇ (At least) they should have a map.

[Why didn't you get one before we left? の one に相当するものを含むのはアの a map しかない。]

○ at least 「少なくとも」

○ should 「(当然) …のはずだ」

【3】

解答

明日は京都見物に行きます。京都は、かつては都で、昔は宮人たちが御所に天皇を訪ねて通りを行き交っていたものだそうです。

7章 助動詞2

要点

■確認問題1

解答

- (1) 私はもう一度あなたに会いたい。
- (2) そのやり方を私に教えてくれませんか。
- (3) 私は今決断するよりむしろしばらく考えたい。

■確認問題2

解答

- (1) 彼はその仕事に最善を尽くすだろう。
- (2) 私は彼に申し訳なく感じないわけにはいかない。
- (3) 彼にはいくら感謝してもしきりすぎることはない。

■確認問題3

解答

- (1) その知らせを聞いて驚くのは当然だ。
- (2) コンサートに行った方がよい。
- (3) 私は飢えるよりもおぼれて死んだ方がました。

■確認問題4

解答

- (1) イ「その本は読んだことがあるかもしれないが、読んだかどうか覚えていない。」
- (2) イ「この作文の英語はうますぎる。彼女が自分で書いたはずがない。」
- (3) エ「姉は今ごろはここに着いてもいいはずだ。というのは、朝早く列車に乗ったのだから。」

問題

【1】

解答・解説

- (1) would rather
 - would rather ~ than … 「…するくらいなら～した方がよい」
 - deceive ~ 「～をだます」
- (2) cannot [can't] ; too
 - cannot ~ too … 「いくら～しても…しすぎることはない」
- (3) may [might] well
 - may [might] well do 「…するのも当然だ」
 - be surprised at ~ 「～に驚く」
- (4) may [might] as well ; as
 - may [might] as well ~ as … 「…するくらいなら～する方がよい」
 - not … at all 「まったく…ない」

【2】

解答・解説

- (1) cannot [can't] have
 - cannot have + 過去分詞 「…した〔だった〕はずがない」
 - pass the examination ↔ fail the examination
- (2) may [might] have
 - may have + 過去分詞 「…した〔だった〕かもしれない」 [might を用いると「控えめ・丁寧な表現」となる。]
- (3) must have
 - must have + 過去分詞 「…した〔だった〕に違いない」
- (4) should have
 - should [ought to] have + 過去分詞 「…すべきだったのに（しなかった）」
 - reserve ~ 「～を予約する」
 - in advance 「前もって、あらかじめ」 (= beforehand)
- (5) ought to have
 - should [ought to] have + 過去分詞 「…してしまっているはずだ」
 - come true 「実現する」
- (6) need not
 - need not have + 過去分詞 「…する必要はなかったのに」 [実際にはわざわざ来たことを表す。]
 - all the way 「ずっと、わざわざ、はるばる」

【3】

解答・解説

- (1) cannot [can't] have done 「彼が自分でそれを作ったはずはない。」
○ for *oneself* 「①自分で ②自分自身のために」
- (2) may have been 「彼女はその時病気だったのかもしれない。」
○ probable 「ありそうな」 > probably 「おそらく」
- (3) must have regretted 「彼は自分の行為を後悔したに違いない。」
○ certain 「確かに」
○ regret ~ 「～を後悔する；～を残念に思う」
○ conduct 「①行為 ②指導・案内 ③管理・運営」
- (4) should have 「あなたたちは彼の忠告を受け入れるべきだったのに（無視した）。」
○ it is ~ of O to do 「…するとはOは～だ」人物の評価の場合、意味上の主語を表す前置詞は of になる。
○ silly 「愚かな」 (= foolish)
○ neglect ~ 「①～を無視する ②～を怠る」
- (5) should have told 「彼らに真実を話すべきだったのに（話さなかった）。」

【4】

解答・解説

下線部と訳について、「全訳」下線部参照。

- must have + 過去分詞 「…した〔だった〕に違いない」
○ a born writer 「生まれながらの作家」 cf. born adj. (生まれながらの、天性の)
(a) ウ 「Life in the small hiding place (あの狭い隠れ家での生活) は、 l. 4 But she never lost hope. (しかし彼女は決して希望を失わなかった。) から、楽しいものではなかったことがうかがえる。よって「楽しいものであつたはずはない。」とする。」
(b) ア 「日記をつけることが、彼女に生きる意志を与えたのかもしれない。」
(c) イ 「私はもっと早くこの本を読むべきだったのに。」

全訳

「アンネの日記」を読んでいるうちに、私は彼女の率直さと鋭い観察力にすっかり魅了されてしまった。

彼女は生まれながらの作家だったに違いない。あの狭い隠れ家での生活は、13歳の少女にとって楽しいものではなかったはずはない。しかし、彼女は決して希望を失わなかった。日記をつけることが、彼女に生きる意志を与えたのかもしれない。アンネの短い生涯は、強制収容所で終わった。戦争とは何と残酷なものであろうか。私はもっと早くこの本を読むべきだった。

注

- l. 1 ○ be charmed by [with] ~ 「～に魅了される」 < charm ~
○ frankness 「率直（さ）」 cf. frank adj. (率直な)
l. 2 ○ observation 「観察、観察力」 < observe ~
l. 4 ○ keep a diary 「日記をつける」

ℓ. 5 ○ cruel 「残酷な」

【5】

解答・解説

「全訳」下線部参照。

- ◇ what really worries me much more [主部] 「実際もっと私を悩ませていることは」
- much は比較級を強める副詞。
- ◇ is that the flowers which ought to have gone to you were sent to a funeral, with the wrong card. [述語 + 補語]
- that [補語の名詞節を導く接続詞]
- the flowers which ought to have gone to you 「あなたのところに行くはずだった（が行かなかった）花束」
- ought to have + 過去分詞 「…すべきだったのに（しなかった）」

全訳

長い間、ジャクソン医師はある大きな近代的な病院で安定した仕事につきたいと思っていた、ついにそれに成功した。彼はなりたかった職に任命されて、彼と彼の妻は今度住むことになっている家に引っ越した。次の日、「深く哀悼の意を表します」という手紙がそえてある美しい花束が彼らの所に送られてきた。当然、ジャクソン医師はそのような妙な手紙を受け取って驚き、そしてその手紙が意味していることを知るためにその花束を送った店に電話した。

店の主人がその出来事を聞いた時、間違いを犯したことをジャクソン医師に謝った。「しかし実際もっと私を悩ませていることは、あなたのところに行くはずだった花束が、ふさわしくないカードと一緒に葬式に送られたということです。」と彼はつけ加えた。

注

- ℓ. 2 ○ at last 「ついに、とうとう」 (= finally)
 - appoint ~ to … 「～を…に指名 [任命] する」
- ℓ. 3 ○ be 動詞 + to do 「①公式の予定 ②義務 ③可能 ④運命」
- ℓ. 7 ○ apologize to ~ for … 「…のことで～に謝る」

【6】

解答・解説

- (1) so that ; may [can ; will] 「我々は生計を立てるために働く。」
 - earn one's living 「生計を立てる」
 - so that S may [will ; can] do 「Sが…するために」 [「目的」を表す副詞節]
- (2) may [might] well 「彼が困惑するのも当然だ。」
 - have good reason to do 「…するための十分な理由がある」
 - get confused 「困惑する」 < confuse ~ 「～を困惑させる」
 - may [might] well do 「…するのももともだ」

- (3) might as well 「あなたは歯医者に見てもらった方がよいだろう。」
- see [consult] a dentist 「歯医者に見てもらう」
 - might as well *do* 「(どちらかといえば) …した方がよいだろう」

添削課題

【1】

解答・解説

- (1) I couldn't help telling a lie 「私は嘘をつかないわけにはいかなかった。」
○ cannot help …ing 「…せざるを得ない」 (= cannot (help) but do)
- (2) You cannot be too careful in driving 「雨の中での運転はいくら注意してもしそうのことではない。」
○ cannot ~ too … 「どんなに～しても…しすぎではない [しても足りない]」
- (3) She may well complain about it 「彼女がそれについて不平を言うのももっともだ。」
○ may [might] well do 「…するのももっともだ」
○ complain about ~ 「～について不満を言う」
- (4) You might as well talk to a stone wall as 「彼と話すくらいなら石の壁に話す方がましだ。」
○ may [might] as well ~ as … 「…するくらいなら～する方がました」

【2】

解答・解説

- (1) イ (その男の子たちはそのアイスクリームを食べるべきではなかったのに、食べてしまった。)
○ should not have + 過去分詞 「…すべきではなかったのに」
- (2) ア (「トムの姿が見えないわ。どうして遅れているのかしら。」「さあ、列車に乗り遅れたのかもしれないし、それが寝坊したのかもね。」)
○ may [might] have + 過去分詞 「…したのかもしれない」
- (3) ア (「今朝、新宿駅で山田さんを見かけましたよ。」「そんなはずはないよ。彼はまだ休暇でハワイにいるんだから。」)
○ couldn't [cannot] have + 過去分詞 「…したはずはない」
○ on vacation 「休暇で、休暇を取って」
- (4) イ (「誰もヒル教授の質問に対する準備をしていなかったね。」「みんな昨夜その課を読んでおくべきだったと思うよ。」)
○ should have + 過去分詞 「…すべきだったのに (しなかった)」
- (5) イ (それはあまり重要じゃない。それは忘れてもいいよ。)
○ might as well … 「…してもよい、…する方がいい」
- (6) イ (「今晚夕食をご一緒しませんか。」「差し支えなければ、ご遠慮したいのです。歯が痛いものですから。」)
[would rather ~ (than ...) 「(…するよりも) むしろ～したい」 / I'd rather not join you for dinner tonight. が省略されたもの]

E1TS/E1T
高1難関大英語S
高1難関大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--